



## 平成31年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月9日

上場会社名 株式会社キリン堂ホールディングス  
 コード番号 3194 URL <https://www.kirindo-hd.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 寺西 豊彦

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 小林 剛久

TEL 06-6394-0100

四半期報告書提出予定日 平成30年10月12日

配当支払開始予定日

平成30年11月12日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	65,035	2.2	847	10.2	1,290	12.5	696	9.4
30年2月期第2四半期	63,623	10.1	768	67.1	1,147	52.7	636	423.1

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 703百万円 (12.0%) 30年2月期第2四半期 628百万円 (684.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	62.46	
30年2月期第2四半期	57.54	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	52,109	14,294	27.4
30年2月期	49,380	13,767	27.8

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 14,270百万円 30年2月期 13,734百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期		12.50		17.50	30.00
31年2月期		17.50			
31年2月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	131,500	3.8	2,580	33.2	3,240	24.4	1,460	13.0	130.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期2Q	11,332,206 株	30年2月期	11,332,206 株
期末自己株式数	31年2月期2Q	164,857 株	30年2月期	192,157 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期2Q	11,151,499 株	30年2月期2Q	11,067,217 株

(注)期末自己株式数には、キリン堂ホールディングス社員持株会信託が保有する自社の株式を含めております(平成31年2月期2Q 163,700株、平成30年2月期 191,000株)。また、同信託が保有する自社の株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております(平成31年2月期2Q 179,550株、平成30年2月期2Q 263,832株)。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	12
販売の状況	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益に改善がみられるなど、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループの属するドラッグストア業界においては、消費者からの支持を獲得することで市場規模が拡大する一方、業種・業態を越えた競争は激化しており、業界再編の動きも活発になっています。さらに、薬価改定及び調剤報酬改定の影響もあり、さまざまな経営環境の変化を受け止めながら、難しい経営判断を迫られています。

このような環境のもと、当社グループは、「地域コミュニティの中核となるドラッグストアチェーン」を確立すべく、日常生活における利便性の提供と未病対策・セルフメディケーションの支援などを行い、地域の健康ステーションとしての機能強化に努め、顧客第一主義の店づくりを推し進めています。

当第2四半期連結累計期間においては、収益性の向上を第一の目標に掲げ、販売促進の改善、店舗改装の推進、プライベートブランド商品の開発、従業員教育の徹底、作業の効率化などに積極的に取り組んでまいりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### <小売事業>

当社の主たる営業地域である関西地区におきましては、6月に大阪北部地震、7月に西日本豪雨が発生しました。さらに夏の猛暑もあり、小売事業はそれらの影響を受けましたが、セグメント売上高につきましては、新店寄与により増収となりました。

セグメント利益につきましては、増収に伴う売上総利益高の増加と、販売促進施策の一部の見直しや、ヘルス&ビューティケア商品が伸長したことなどから、粗利益率が改善され増益となりました。

出店状況におきましては、ドラッグストア4店舗（内、調剤薬局併設型3店舗）、小型店4店舗（内、調剤薬局2店舗）の計8店舗を出店する一方、ドラッグストア1店舗、調剤薬局3店舗の合計4店舗を閉店いたしました。また、他社から調剤薬局2店舗の譲受を行いました。結果、当第2四半期連結会計期間末の当社グループ国内店舗数は、以下のとおり（合計365店舗）となりました。

	前期末	子会社化等による 新規増加店舗	出店	閉店	フォーマット 転換等	当第2四半期末
ドラッグストア （内、調剤薬局併設型）	296 (40)	— (—)	4 (3)	△1 (—)	— (1)	299 (44)
小型店 （内、調剤薬局併設型） （内、調剤薬局）	61 (3) (34)	2 (—) (2)	4 (—) (2)	△3 (—) (△3)	— (—) (—)	64 (3) (35)
その他 （内、調剤薬局併設型）	1 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)
FC店	1	—	—	—	—	1
合 計	359	2	8	△4	—	365

この結果、売上高は640億98百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は10億99百万円（同10.2%増）となりました。

#### <その他事業>

その他事業におきましては、売上高は9億37百万円（前年同月比2.4%減）となりましたが、販売費及び一般管理費が一時的に増加したことにより、セグメント損失は7百万円（前年同期セグメント利益43百万円）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は650億35百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は8億47百万円（同10.2%増）、経常利益は12億90百万円（同12.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億96百万円（同9.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ27億28百万円増加し、521億9百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加12億36百万円、受取手形及び売掛金の増加3億37百万円、たな卸資産の増加7億29百万円、のれんの増加3億30百万円などによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ22億円増加し、378億14百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加12億21百万円、電子記録債務の増加9億58百万円などによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億27百万円増加し、142億94百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加4億98百万円などによるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、98億21百万円となり、前連結会計年度末と比較して12億56百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、27億20百万円（前年同期は33億81百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益11億16百万円、減価償却費6億87百万円、仕入債務の増加21億80百万円などの増加要因と、売上債権の増加3億37百万円、たな卸資産の増加7億17百万円などの減少要因によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、11億49百万円（前年同期は19億78百万円の支出）となりました。これは主に、新規出店や改装等に伴う有形固定資産の取得による支出5億43百万円、無形固定の取得による支出2億50百万円、事業譲受による支出3億80百万円、貸付による支出35百万円、貸付金の回収による収入1億37百万円などによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、3億14百万円（前年同期は8億84百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の純増額3億円、長期借入金の収支による支出超過2億23百万円、リース債務の返済による支出1億28百万円、配当金の支払額1億97百万円、割賦債務の返済による支出1億24百万円などによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の通期業績予想につきましては、平成30年4月13日に発表した前回予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,258	9,495
受取手形及び売掛金	2,484	2,822
たな卸資産	14,086	14,816
その他	2,868	2,922
貸倒引当金	△50	△57
流動資産合計	27,648	29,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,330	9,356
その他（純額）	2,587	2,378
有形固定資産合計	11,918	11,734
無形固定資産		
のれん	210	540
その他	211	404
無形固定資産合計	421	945
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,677	4,721
その他	5,179	5,173
貸倒引当金	△465	△464
投資その他の資産合計	9,392	9,429
固定資産合計	21,732	22,110
資産合計	49,380	52,109

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,293	10,515
電子記録債務	7,546	8,505
短期借入金	600	900
賞与引当金	554	600
店舗閉鎖損失引当金	34	—
その他	6,056	5,750
流動負債合計	24,086	26,271
固定負債		
長期借入金	8,810	8,794
退職給付に係る負債	12	14
資産除去債務	1,290	1,306
その他	1,414	1,428
固定負債合計	11,527	11,543
負債合計	35,613	37,814
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	5,447	5,447
利益剰余金	7,387	7,885
自己株式	△155	△133
株主資本合計	13,678	14,198
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	55	71
繰延ヘッジ損益	△0	—
その他の包括利益累計額合計	55	71
非支配株主持分	33	24
純資産合計	13,767	14,294
負債純資産合計	49,380	52,109

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	63,623	65,035
売上原価	47,253	47,993
売上総利益	16,370	17,042
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	6,197	6,436
賞与引当金繰入額	590	592
賃借料	3,234	3,354
その他	5,580	5,812
販売費及び一般管理費合計	15,601	16,195
営業利益	768	847
営業外収益		
受取情報処理料	259	272
受取賃貸料	199	234
その他	184	205
営業外収益合計	643	713
営業外費用		
賃貸費用	177	202
その他	86	67
営業外費用合計	264	269
経常利益	1,147	1,290
特別利益		
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却益	7	—
関係会社株式売却益	3	—
特別利益合計	11	1
特別損失		
減損損失	93	84
店舗閉鎖損失	8	88
その他	10	3
特別損失合計	111	175
税金等調整前四半期純利益	1,047	1,116
法人税、住民税及び事業税	405	442
法人税等調整額	9	△12
法人税等合計	415	429
四半期純利益	631	687
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	636	696



四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益	631	687
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	15
繰延ヘッジ損益	0	0
その他の包括利益合計	△3	16
四半期包括利益	628	703
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	633	712
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△8

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,047	1,116
減価償却費	641	687
減損損失	93	84
のれん償却額	19	35
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△42	7
賞与引当金の増減額(△は減少)	66	46
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	0	1
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	0	△34
受取利息及び受取配当金	△22	△18
支払利息	38	37
固定資産売却損益(△は益)	△0	1
投資有価証券売却損益(△は益)	△7	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△3	—
売上債権の増減額(△は増加)	△380	△337
たな卸資産の増減額(△は増加)	△673	△717
仕入債務の増減額(△は減少)	2,497	2,180
その他の資産の増減額(△は増加)	148	△85
その他の負債の増減額(△は減少)	280	160
その他	△19	33
小計	3,682	3,197
利息及び配当金の受取額	16	18
利息の支払額	△38	△36
法人税等の支払額	△396	△465
法人税等の還付額	117	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,381	2,720
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,663	△543
有形固定資産の売却による収入	36	3
無形固定資産の取得による支出	△17	△250
投資有価証券の取得による支出	△0	△31
投資有価証券の売却による収入	8	—
関係会社株式の売却による収入	118	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△147	—
事業譲受による支出	△105	△380
貸付けによる支出	△196	△35
貸付金の回収による収入	141	137
店舗敷金及び保証金の差入による支出	△100	△80
店舗敷金及び保証金の回収による収入	8	48
その他の支出	△60	△53
その他の収入	1	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,978	△1,149

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	400	300
長期借入れによる収入	2,400	1,261
長期借入金の返済による支出	△1,583	△1,484
リース債務の返済による支出	△107	△128
社債の償還による支出	△8	△8
自己株式の売却による収入	53	68
配当金の支払額	△141	△197
割賦債務の返済による支出	△127	△124
財務活動によるキャッシュ・フロー	884	△314
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,288	1,256
現金及び現金同等物の期首残高	7,335	8,564
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,623	9,821

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

#### I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年8月31日)

##### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	小売事業				
売上高					
外部顧客への売上高	62,662	960	63,623	—	63,623
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	252	252	△252	—
計	62,662	1,213	63,876	△252	63,623
セグメント利益	997	43	1,041	△272	768

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、卸売事業、医療コンサルティング事業及び海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△272百万円には、セグメント間取引消去13百万円、のれんの償却額△19百万円、営業権の償却額△7百万円及び報告セグメントに配分していない全社費用△259百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

##### 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。その結果、市場価格の著しい下落又は収益性の悪化により、回収可能価額が帳簿価額を下回った資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

「小売事業」セグメントの減損損失の計上額は93百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成30年3月1日至平成30年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	小売事業				
売上高					
外部顧客への売上高	64,098	937	65,035	—	65,035
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	170	170	△170	—
計	64,098	1,108	65,206	△170	65,035
セグメント利益又は損失（△）	1,099	△7	1,092	△245	847

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、卸売事業、医療コンサルティング事業及び海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失（△）の調整額△245百万円には、セグメント間取引消去33百万円、のれんの償却額△35百万円、営業権の償却額△7百万円及び報告セグメントに配分していない全社費用△236百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。その結果、市場価格の著しい下落又は収益性の悪化により、回収可能価額が帳簿価額を下回った資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

「小売事業」セグメントの減損損失の計上額は84百万円であります。

### 3. 補足情報

#### 販売の状況

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)	対前年同四半期増減率 (%)
小売事業 (百万円)	64,098	2.3
その他 (百万円)	937	△2.4
合計 (百万円)	65,035	2.2

- (注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。  
2. 小売事業における品目別売上高は次のとおりであります。

区分		当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)		
		売上高 (百万円)	対前年同四半期 増減率 (%)	構成比 (%)
商品売上高	医薬品	10,350	△1.3	16.2
	健康食品	2,430	2.8	3.8
	化粧品	16,010	2.7	25.0
	育児用品	1,530	△4.8	2.4
	雑貨等	26,880	1.7	41.9
	計	57,202	1.3	89.3
調剤売上高		6,231	10.3	9.7
その他		664	26.6	1.0
合計		64,098	2.3	100.0

(注) 小売事業の「その他」は、ネット通販売上高等であります。